第 88 回全国健康保険協会香川支部評議会議事録

開催日時：令和 8 年 10 月 20 日（火）14：00～16：00
開催場所：全国健康保険協会香川支部　会議室
評 議 員：長山評議員（議長）、西尾評議員、芳我評議員、原田評議員、
藤井評議員、藤岡評議員、古屋評議員（副議長）、三好評議員
（欠席）松木評議員

（五十音順）

議事
〇協議・報告事項
1. 2027（令和 9）年度保険料率について
2. 中期戦略プランについて
3. 支部戦略プラン（支部健康づくり戦略）策定について

〇その他
1. 電子申請/医療費のお知らせ一斉送付終了
2. 協会けんぽ香川支部の概要

〇協議・報告事項

協議・報告事項 1.　2027（令和 9）年度　保険料率について

【事務局より資料に基づき説明】

◆主な意見
【学識経験者】
準備金が顕著に積み上がっている一方で、賃上げによるインフレの加速や診療報酬改定の影響等、社会情勢が予測し難い状況である。また、今後 15 年間の機械的試算から、単年度収支差がマイナスに転ずる可能性を考慮した場合、できるだけ長く平均保険料率 10%を超えないよう、中長期的に安定した財政運営を目指すべきと考える。

【事務局】
年齢階層別人口の推移を見た場合、65 歳から 74 歳人口の割合が 2045 年でピークを迎えるが、15 歳から 64 歳人口は 1990 年以降から減少傾向であるため、依然として現役世代の負担増加が見込まれることも、今後の財政運営を検討するうえで、留意すべき事項である。

【事業主代表】

単年度収支が赤字になる状況は好ましくないが、中小規模事業所においては、原材料の仕入価格高騰並びに賃上げ等の影響により、健康保険料の負担が増加することは、経営的に非常に厳しいと感じるので、平均保険料率の引き下げについてもぜひ検討いただきたい。

【学識経験者】

賃上げや物価対応に伴う診療報酬改定の影響も見据えた中長期的視点で、平均保険料率についての検討を行うべきである。

その一方で、大学病院においては、赤字経営が改善に至るほどの診療報酬改定の効果は十分には見込めず、加えて医療設備の維持・更新や研究実績等も求められることから、地域医療の「最後の砦」として経営を維持していくことは、引き続き厳しい状況にあると考えられる。

【事業主代表】

1990 年代から 2000 年代にかけて、政府管掌健康保険は、なぜ平均保険料率を８％台で推移できていたのか。

【事務局】

労働人口の割合が現在よりも大きかったことが要因の一つとして考えられる。政府管掌健康保険は、約５人で１人の高齢者を支えていたが、現在は約２人で１人の高齢者を支えている状況にある。また政府管掌健康保険は、制度改正を行って単年度収支を均衡に保つ財政方針で運営していたことも要因として挙げられる。

協議・報告事項 2.　中期戦略プランについて

【事務局より資料に基づき説明】

◆主な意見

（質問・ご意見なし）

協議・報告事項 3.　支部戦略プラン（支部健康づくり戦略）策定について

【事務局より資料に基づき説明】

◆主な意見

【学識経験者】

香川県は、小児生活習慣病の早期発見を目的に、小学４年生と中学１年生を対象にした小児生活習慣病予防健診を実施しているが、香川県教育委員会と連携した健康リテラシーの向上の取組を実施することは非常に良いことである。

一方で、中小規模事業所においては、日々の売上や目先の業務が優先されるため、健診の重要性や健康づくりの取組が十分に浸透していないように感じている。今後は健診を早期発見・早期治療という二次予防としての役割に加え、健康リテラシーの向上並びに生活習慣の改善につながる一次予防としての役割も担えるよう健診の在り方を見直すとともに、その趣旨についても広く周知していただきたい。

【事業主代表】

中小規模事業所の事業主は、健診や健康づくりの重要性について、十分に認識していないと考えられることから、リクルート効果が見込めるなどのメリットを伝えながら、引き続き健康経営の推進に努めてほしい。

【事務局】

先日、香川県内全ての商工会から健康宣言事業所の申し込みを頂戴した。経済団体との連携を継続しながら、事業主に対して事業所訪問を積極的に実施するなど健康経営の推進を図る予定である。

【事業主代表】

従業員が病気等で欠員となった際に発生する業務への影響度について、経営的な視点での損失状況を可視化し、事業主に提示することができれば、意識改革をより進めることができると考える。

〇その他

その他１.　電子申請/医療費のお知らせ一斉送付終了

その他２.　協会けんぽ香川支部の概要

【事務局より資料に基づき説明】

◆主な意見

（質問・ご意見なし）

以上

令和 8 年 10 月 20 日